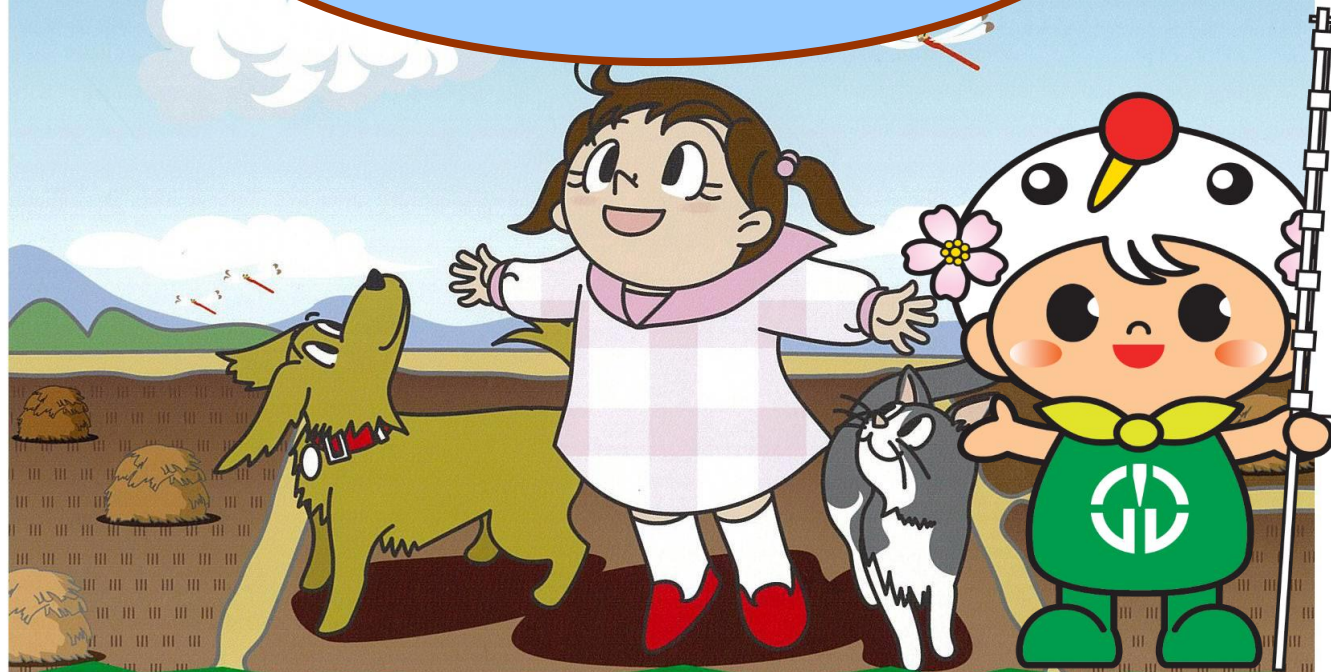


お願い! 稲わらを焼かないで!!

# わら焼き シャットアウト!

稲わらは有効活用  
しましょう!



わら焼きはみんなの迷惑! 稲わらは「土づくり」に活用してリサイクル。



## 鶴田町

「青森県稲わらの有効利用の促進及び焼却防止に関する条例」が平成22年6月に施行されました。稲わらを焼却処分せず有効利用することは「農業者の責務」です。稲わらは、堆肥にしたり、すき込むなどして有効に活用しましょう!

# 水稻の出穂状況と刈取時期の予想

## 出穂状況

| 市町村 | 始<br>(月日) | 盛期    |       | 終<br>(月日) |
|-----|-----------|-------|-------|-----------|
|     |           | (月日)  | (平年差) |           |
| 鶴田町 | 7月29日     | 7月31日 | 早3日   | 8月4日      |

## 刈取時期の目安

刈り取りが遅れると、胴割れ・茶米・奇形粒などの発生が多くなります。  
表を参考に、自分の水田の状況を見ながら、刈取時期を判断しましょう。

高温により、刈取適期は平年より大幅に早まる見込みです。刈り遅れは品質低下を助長するため、稲刈りの準備を早めに行い、適期内に収穫できるようにしましょう！

|           |                                                                      |
|-----------|----------------------------------------------------------------------|
| 籾の黄化程度    | ①「まっしぐら」、「はれわたり」 ほ場全体の籾が、90%程度黄化した時期<br>②「青天の霹靂」 ほ場全体の籾が、85%程度黄化した時期 |
| 枝梗の黄化程度   | 枝梗の2／3程度が黄化した時期                                                      |
| 青未熟粒の混入割合 | 青未熟粒の混入率(1.9mm選別、重量比)が、10%程度まで減少した時期                                 |
| 籾水分       | 25～26%程度まで減少した時期                                                     |
| 出穂後積算気温※  | 青天の霹靂:900～1,100℃ まっしぐら:960～1,200℃ はれわたり:970～1,300℃                   |

※出穂後積算気温:出穂期の翌日から毎日の平均気温を積算した値

## 積算気温からみた刈取期間の目安

| 出穂期    | 7月28日 | 7月31日 | 8月3日  | 備 考        |
|--------|-------|-------|-------|------------|
| 900℃   | 9月3日  | 9月6日  | 9月10日 | 「青天の霹靂」の始期 |
| 960℃   | 9月6日  | 9月9日  | 9月13日 | 「まっしぐら」の始期 |
| 970℃   | 9月6日  | 9月9日  | 9月13日 | 「はれわたり」の始期 |
| 1,100℃ | 9月11日 | 9月15日 | 9月18日 | 「青天の霹靂」の晩期 |
| 1,200℃ | 9月16日 | 9月20日 | 9月24日 | 「まっしぐら」の晩期 |
| 1,300℃ | 9月21日 | 9月25日 | 9月29日 | 「はれわたり」の晩期 |

8月19日までは本年値、それ以降は「平年値+1℃」を使用(五所川原アメダス)

# 稲わら有効利用で美味しい米を！

稲わらは貴重な有機質資源です。堆肥にするなど有効に利用しましょう。  
稲わらを毎年すき込むと、堆肥と同等の効果が期待できます。  
地力を高め、美味しい米を生産しましょう！

## 稲わらすき込み田の管理

- 初期生育は劣りますが、秋まさり的な稲となります。
- すき込み時期は秋を基本とし、石灰窒素など腐熟促進剤を施用しましょう。
- 代かき時は水深を浅めにし、稲わらを土中に埋め込みましょう。
- ガスが発生しやすいので、気象条件に応じた適正な水管理や、中干し・溝切りを行い、土に酸素を供給しましょう。
- 基肥窒素量の目安

| 稲わらすき込み状況 | 基肥窒素量の目安     |
|-----------|--------------|
| 連用2～3年目まで | 慣行より5～10%増やす |
| 連用3～4年目   | 慣行施用量と同量     |
| 連用4～5年目以降 | 慣行より5～10%減らす |

# 農作業 焦らず、急がず、慎重に！